

2016年度 日本文化人類学会
第5回理事会 議事録(案)

日時：2016年12月17日(土) 14時～17時30分

会場：東京大学 東洋文化研究所 第一会議室

<出席者>松田、綾部、伊藤、川田、栗本、桑山、湖中、田中、棚橋、中谷、名和、真島、箭内
<委任状提出>宇田川、岡田、小田、慶田、佐々木、白川、高倉、速水、三尾、森山

[承認事項]

1. 2016年度第4回理事会議事録
2. 新入会員(19名)につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. WCAAからNAFAの加盟申請についての投票依頼があり、総務会にて検討の上、Yesの投票を行ったことを報告し事後承認された。

[報告事項]

1. 庶務理事報告
 - ・第4回三笠宮オリエント学術賞の推薦依頼が届き、総務会で検討の上、本賞が「自薦または他薦」による推薦を受け付けていることから、学会による推薦(他薦)候補者の募集(12月22日締切)及び自薦による応募の案内をJASCA-INFOにて配信したことを報告。
 - ・独立行政法人大学評価・学位授与機構より機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦依頼があり、総務会で検討の上、本学会の第27期理事会から機関別認証評価委員会専門委員候補者を推薦することを決定し、9名に内諾を得た上で推薦をおこなったことを報告。
 - ・学会費未納4年目の会員に対して2016年12月31日までに年会費納入ないし正式な退会手続きのいずれかの手続きをとらない場合には退会処理を行う旨を本年度会費請求時に通知済みであることを説明の上、今年度末で退会処理を行うことを確認。なお、12月中旬に学会費未納4年目の会員にメールで退会意思の確認及び会費納入依頼を行うこととした。
2. 会計理事報告
 - ・平成28年度科学研究費助成事業(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)」の実績報告書を提出したことを報告。
 - ・『文化人類学』意匠変更費用について、デザイナーの工藤強勝氏より表紙デザインの初期費用の見積書が届いたこと、総務会と編集委員会で検討及び確認の上、見積額を支払うことを承認したことを報告。各号毎に支払うデザイン料については次回理事会で検討を行うことを確認。
 - ・2017年度以降の新会費体系に関する会員への告知に関し、『文化人類学』81巻3号にチラシの挟み込みを行うこと、81巻4号により詳しい内容を掲載予定であることを報告。掲載文案については総務会へ一任することを承認。
3. 総務理事報告
 - ・平成29年度澁澤民族学振興基金「民族学振興プロジェクト助成」の内定通知が届いたことを報告。
4. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき12件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。うち規定外の2件については総務会で検討の上配信を行ったことを報告、事後承認された。
5. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：81巻3号の進捗状況と、査読制度改革ワーキンググループの会合を開催したことを報告。
 - ・JRCA編集委員会：編集主任の速水理事が欠席のため、川田理事の代読により、2016年度より2号刊行となったため、号数表示をVol.17-1、Vol.17-2とすることが報告された。それに伴い2016年度事業計画を変更することが提案され、承認された。
 - ・「国際情報発信強化」特別委員会：第3回国際シンポジウムが11月19日にお茶の水女子大学にて開催されたことを報告。次回国際シンポジウムの参加者増に向けて方策を検討する必要があることを確

認した。

- ・課題研究懇談会担当委員会：欠席の高倉理事に代わり川田理事より、現在継続1年目の2懇談会のうち1件より次年度の継続申請があったことを報告、次回理事会で申請書を回覧し、委員会の検討結果に基づき審議を行うことを確認した。
- ・学会歴史委員会：会員より、遺族の承諾のない人類学者・民族学者インタビュー映像記録の公開に関して連絡があり、神奈川大学常民文化研究所を訪問し確認、検討を行ったこと、指摘のあった映像については閲覧を一旦停止していることを報告。また、過去の委員長への聞き取り等を行い、インタビュー映像記録のスク립ト、映像の所在について年度内にはっきりさせる予定であることを報告。
- ・研究発表査読委員会：第51回研究大会の研究発表要旨の査読を進めていることを報告。
- ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。
- ・学会賞選考委員会：選考委員会を開催し、選考を進めていることを報告。

[審議事項]

1. 事務局員の雇用に関する申し合わせについて
 - ・事務局職員の更新について、雇用に関する申し合わせを確認の上、雇用更新が承認された。
2. 澁澤賞選考委員の推薦について
 - ・川田理事より、任期満了に伴う平成29年度澁澤賞選考委員会の委員長・委員の推薦依頼があったことが報告され、平成29年度の委員長と新規委員推薦（平成30年度委員長案含む）に関する総務会案が承認された。
3. 学会誌電子版のJ-STAGE移行に関わる提案
 - ・名和理事より、『文化人類学』80巻4号についてJ-STAGEへの登載作業を開始したこと、1論文につき2時間程度の作業量であることが報告され、今後はJ-STAGE担当の人員を手当てする方向で検討を行うことを確認した。
 - ・最新号の認証期間については前期理事会で決定された36ヶ月間で進めること、認証期間中の号については、会員はパスワード認証によりアクセス可能とすることを確認した。会費体系の改定の影響等をみた後に期間の変更について引き続き議論していくこととした。
4. 『文化人類学』編集委員会よりの提案
 - 1) 学会誌への広告ページの導入可能性について
 - ・真島理事より、広告の導入について情報収集を行ったことが報告され、導入した場合に想定される課題等について意見交換の上、広告ページ導入の方向で進めることが承認された。
 - 2) 学会誌投稿フォーム改定について
 - ・真島理事より、今回の投稿フォームの改定において、技術的な利便性を求めた改定と査読希望欄に関する改定を行うことが提案され、前回理事会の議論を反映した投稿フォーム案について説明がなされた。議論の結果、「希望しない査読者」の情報は編集主任と事務局のみが取り扱うこと、利益相反に関する指針についてはもう少しわかりやすい文言を検討することを確認し、大筋で投稿フォーム改定案が承認された。また、最終的なフォーム案を次回理事会前に理事会MLで配信することとした。
 - 3) 査読制度改革にむけた中間報告
 - ・オブザーバーとして参加した佐川徹委員より、査読制度改革ワーキンググループが調べた国内外誌の情報と本誌の規定と、検討を行ってきた内容について中間・最終報告がなされ、検討過程を理事会で情報共有した。本件については次回理事会で引き続き検討を行うこととした。また、議論の中で、今回の議論・報告書を学会誌に掲載し会員と共有することに関する意見や、プレ査読の利点・問題点に関する意見が出され、今後委員会で検討していくこととした。
5. WCAAのthe Global Survey of Anthropological Practice (GSAP)実施計画について
 - ・棚橋理事より、WCAAのthe Global Survey of Anthropological Practice (GSAP)実施計画について説明があり、学会として本件（人類学者のおかれている実態に関する調査）に参加する方向で提案がなされ、審議の結果承認された。本件について調査用URLの周知等、会員へのアナウンスが必要な場合にはJASCA-INFOで配信を行うこと、配信用の文言については総務会に一任することが承認された。

6. その他

- 松田会長より、第52回以降の研究大会の実施体制に関し、開催校依頼状況の報告があり、先方より当日の人員差配と懇親会以外については理事会の補助が必要との回答があったことが報告された。過去の開催校経験や主催経験の情報交換を含め、法人化に合わせ評議員数の増加や複数校による合同開催、研究大会開催のシステム変更のメリット等、意見交換がなされた。次回理事会では理事会内でどのような対応が可能か検討を行うこととした。
- 松田会長より、法人化のスケジュールに関し専門家に確認してもらったところ、パブリックコメントが現在まで0件なのは問題でありもっと多くの意見聴取を行う必要があるとのアドバイスを受けたことが報告された。今後、各地区懇談会理事、課題研究懇談会幹事、次世代育成セミナー運営委員会幹事、若手組織の会員等にランダムに会長名で意見聴取依頼を行うこと、会員に向けてパブリックコメントを依頼する会長文書を81巻4号へ掲載することが承認された。また、2017年度総会に向け、2017年4月頃にはパブリックコメントを踏まえ理事会の意志決定を行う必要があることを確認した。
- 第6回理事会は2017年2月11日（土）東京大学東洋文化研究所。

以上